

# LUX MUNDI

東北学院同窓会報 [ルクス・ムンディ～世の光～]

Vol.18 2015.3



通信 Life Light Love

17万人が繋ぐ、TGコミュニケーション

## 表題 ～Lux Mundi(世の光)～

「Lux Mundi(ルクス・ムンディ)」は、ラテン語で「世の光」を意味します。「世の光 わがほこり」と校歌にも出てきますので、東北学院で学んだ方々には馴染み深いものがあると思います。「ルクス・ムンディ(世の光)」は、いうまでもなく東北学院の真の創設者イエス・キリストのことです。そのキリストの光に導かれて、それぞれの人生を歩んでいただきたいとの願いが込められています。

## CONTENTS

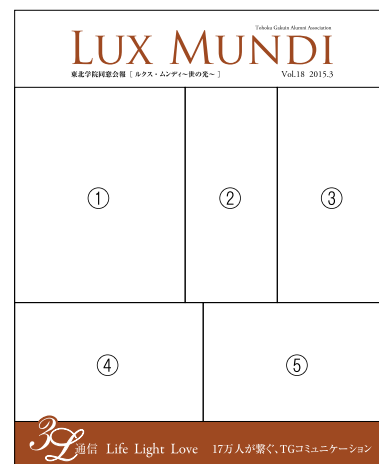
- 01 ホームカミングデー・TG交流ゴルフ大会 開催の案内
- 02 特集 TG座談会  
東北学院高等学校 同期会「二七会」 関 俊一郎 太田 信一 青山 正彦
- 06 躍動する同窓生 ～世代を超えたTGの輪～  
音楽コーディネーター 関井 うらら  
スズキダンススクール 有限会社スズキ・エモーショナル・カンパニー 鈴木 政春  
株式会社ユーメディア 代表取締役会長 今野 敦之  
有限会社神田時来組 俳優 稲毛 健一郎
- 14 懐かしい風 新しい出会い～同級生のお店を訪ねて～  
亀喜寿司 有限会社亀喜 保志 昌宏  
伊達瓦煎餅本舗 有限会社一茶 佐藤 明
- 18 Faces この人、この顔 / 東北学院同窓会 青森県上十三支部 支部長 神 直子
- 20 TGギャラリー
- 21 TGネットワーク / 土樋キャンパス開発進捗状況
- 巻末 校友課より / 編集後記

## 表紙

### 東北学院のステンドグラス

東北学院には、美しいステンドグラスが設置されています。最も古いのは、昭和7(1932)年3月献堂のラーハウザー記念東北学院礼拝堂のもの。ここにはイエス・キリストの昇天の場面が描かれていますが、他のステンドグラスも聖書の一節をモチーフにしたり、そこからイメージして表現された意匠が、建物の雰囲気を崇高なものにしています。

- ① 東北学院大学土樋キャンパス
- ② 東北学院中学校・高等学校
- ③ 東北学院大学泉キャンパス
- ④ 東北学院榴ヶ岡高等学校
- ⑤ 東北学院大学多賀城キャンパス



## 第2回 TG交流ゴルフ 大会のご案内

### 東北学院同窓会主催

東北学院同窓会では、昨年より仙台同窓会の事業でありましたTG交流ゴルフ大会を引き継ぎまして、東北学院同窓会主催事業として行っております。

つきましては「東北学院同窓会主催第2回TG交流ゴルフ大会」を下記の通り開催いたしますのでご案内申し上げます。

### 日時

平成27年10月23日(金)

### 会場

仙台カントリーゴルフ倶楽部・  
名取コース

(名取市愛島笠島 TEL:022-383-3636)



## ホームカミングデーを 開催いたしました

平成26年10月18日(土)、第15回同窓祭 東北学院ホームカミングデーを開催いたしました。抜けるような青空の下、集まったたくさんの同窓生たち。ラーハウザー記念礼拝堂において記念礼拝を行い、東北学院中学校・高等学校で教鞭を執られた大木騏一郎氏の心温まる講話に耳を傾けました。その後、「懐かしい出会いの夕べ」の会場に移動。懐かしい恩師、同窓生との再会をともに喜び合いました。最後は参加者全員で肩を組んで一つの輪になり、校歌を斉唱。同窓生の絆の強さを再確認し、母校の発展を願う一日となりました。



### 大木騏一郎氏の記念講演レポート

第15回ホームカミングデーにおいて、元東北学院中学校・高等学校教諭の大木騏一郎氏による記念講演が行われました。演題は『信念の人 月浦利雄先生』。東北学院中・高、高校二部、東北学院榴ヶ岡高校の校長を務めた月浦先生の逸話が披露されました。

(大木氏講演から)

私よりも5つ上の先輩の先生が、ある賞を受賞し、東京で行われる授賞式に出席するため、欠勤届を月

浦校長先生に提出しました。すると『「休む日の授業を他の日にやれ!」と一喝され、震え上がった。出発の朝、駅のプラットホームには一喝した月浦先生が立っており、お饞別を頂戴し、不覚にも涙を流してしまっ』と、先輩は後にそのときのことを語っております。

大木氏の講演を通して、月浦先生から教養を受けていない卒業生たちも、月浦先生が大変厳しい人でありながら、愛情にあふれた人格者であったことを知る機会となりました。

## ホームカミングデー 今年は、10/24(土)に開催いたします

東北学院主催

ホームカミングデー記念礼拝『土樋キャンパス礼拝堂』

東北学院同窓会主催

東北学院ホームカミングデー  
第16回同窓祭「懐かしい出会いの夕べ」

時間／17:00～ 会場／江陽グランドホテル



# 3Lの精神は いまもなお 私たちの心の中で 輝いています



**太田 信一**  
(おた・しんいち)

昭和24年東北学院中学校卒・昭和27年東北学院高等学校卒  
趣味: ゴルフ、読書

二七会 代表  
**関 俊一郎**  
(せき・しゅんいちろう)

昭和24年東北学院中学校卒・昭和27年東北学院高等学校卒 (旧制台北第4中学校から2年時東北学院中学校に転入)  
趣味: 旅行、魚釣り、映画鑑賞

**青山 正彦**  
(あおやま・まさひこ)

昭和24年東北学院中学校卒・昭和27年東北学院高等学校卒 (旧制宮城県白石中学校から2年時東北学院中学校に転入)  
趣味: 散歩、読書、右と言え左

東北学院高校「二七(にしち)会」は、東北学院高校を昭和27年(1952年)に卒業した同期生によって組織された親睦会である。発足から六十年余り、今日に至るまで一度も休むことなく、毎年総会および親睦の会が開かれ、友情が育まれてきた。今回は同会の運営にたずさわる3人の方々に、戦後の東北学院中学校・高校において、どのような青春時代を過ごして来られたのか、また同会の活動が今日まで続いている秘訣などを語っていただいた。

## 戦後の混乱の中でも 輝いていた青春時代

**太田** 私たちが中学に入学したのが終戦の翌年、食べるのもやっとという時代でした。学校も戦災に遭っていましたから、赤レンガの校舎内では机や椅子も不足しており、泥だらけの教室に座布団をもつていつて勉強したことを思い出します。何かと協力し合わなければ生活も勉強もできない状況だったから、「コミュニケーションも自然に密になるという点で、他の学年にはない環境だったと思います。先生方も我々生徒が入学するのと、ときを同じくして学院に入ってきたので、よい意味で友だちのような関係でした。「ジャイアント」とか、「ラッキョさん」と、あだ名で呼んでも怒られなかったんですよ(笑)。

**関** 当時、中学は5年制だったわけですが、昭和22年の学制改革で6・3・3制となったでしょう。あらゆることが大きく変わった時代でした。周囲は混乱していましたが、学校は本当に楽しかった。高校1年のとき、バースンス先生やラマーズ先生から生の英語のレッスンを受けたら、高校3年の秋の運動会では「ごん底乞食祭」、「世相てんやわんや」と題して仮装行列をやって、大勢で奇声をあげながらグラウンドを一周したりもしましたね(笑)。このイベントで仲間の絆がより一層深まったような気がします。また、あのころは下駄履きで通学していました。遅刻は厳罰。汽車、電車、市電通学生が大半を占めていて、自転車通学は高嶺の花(笑)。屋内外を問わず常に素足で、サッカーや野球もすべて運動靴なしでやっていたのだから、若さとはすごいものです。



## 六十余年を経てなお 「兄弟愛」でつながる絆

**太田** いま思うと大変だったな。でも、楽しかったなあと思うことはありますね。そういえば月浦校長の鶴の一声で、なぜかスポーツの対外試合を禁止して全校サッカーを奨励した時期がありましたね。私たちが有志の運動部復活の訴えが効いたのか禁止令は私の卒業後に解かれましたが、当時は鍛えた力を試す機会を失い非常に残念に思っていました。

**青山** 今の話には続きがありますよ。当時、片側1車線くらいの狭い東一番丁通りを挟んで宮城学院があり、校庭の澆刺とした女子生徒たちが眩しかったものです。ミスキックで校庭に転がり込んだサッカーボールを拾うためなら、女の園に入るチャンスありを学習した生徒たちが、狙うゴールを道路越えの校庭に変えたのも自然の流れでしょうね。学校は全員サッカー奨励の成果ともいえず、大きなネットを張り牽制しましたが執念のミスキックが優勢。ついには高いフェンスを建てて一件落着きました(笑)。

**関** 高校は218名で4クラス。3回のクラス替えのお陰で、卒業するころは皆が気心の知れた友だちでした。高校を卒業するとすぐ中核になってくれた同期生がいたので、二七会は長く続いたと思います。「同期会をつくらう」と言い出したのが東京屋カバン店の山田光夫君。事務局を引き受けてくれたのは竹内金物店の源ちゃん。同期生の情報は丸善の佐藤耕造君に集まりやすいなど、世話人が仙台の中心街にいたという地の利もありましたね。

**青山** 敗戦でわが国の価値観は一夜にしてひっくり返りました。しかし、わが東北学院の「3L精神」に基づく教育理念は変わらなかった。これを言い換え



二七会総会での記念写真(平成24年6月)

## 同窓会・同期会は 最大の応援団

**青山** 各界各層に散らばって活躍している17万人余りの同窓会員は東北学院最大の応援団です。

**太田** そうですね。母校東北学院は同窓生をもっと活用して欲しいと思います。

**青山** 同窓生に加えて教員・学生・生徒はもちろん後援会や地域住民など東北学院と関わるステークホルダーの方々は、国の内外で活躍しておいでです。遠方の方々は『双方向型交流システム』を開発して随時に連携。東北学院のサポーターとして知恵を出して頂く機会を提供したいものです(交流窓口は東北学院サテライトステーション)。

いま、経営はパワーを外部に求める時代です。この流れは学校経営でも同じ筈です。『変わらないためには、変わらねばならない』と思いますよ。

**関** 外部パワーを東北学院発展のために積極投入してはという青山君の提案は理解できません。その具体的展開を考えると年次計画のなかでやれるものと、小・中・高・大学の一貫教育のように中・長期計画のなかで練り上げるものに分かれると思います。

差し当たっては27年度年次計画として『東北学院同窓会』のスパイラルアップを考えるべきではないでしょうか。例えば、17万人余りの1割でもいいから、東北学院と同窓生との『体感』を醸成することです。母校に対する同窓生一人ひとりの『声なき声』が学校にとってヒントになることを同窓生が改めて実感すれば、一体感が生まれることでしょうか。同窓会には母校を思う同窓生を束ねて最大の応援団を作っていただくようお願いいたします。

東北学院の発展のため、我々同窓生一丸となって

ば、中学・高校の一貫教育から得た知識を全部忘れてもお残って光り輝く何か、教養とでもいうのでしょうか。あの大混乱の時代、私たち同期生には『自分のいのちを光り輝かせよう』。そして『他人が光り輝くのも手伝おう』という心遣いがごく自然に培われていたんですね。友人同士は連帯感というが兄弟愛のようなもので固く結ばれていたんですよ。

**関** そうだと思いますよ。60周年のときに発行した記念文集には、55名もの同期生が寄稿してくれましたが、彼らが異口同音に書いています。「聖書と讃美歌、祈り。この三つが忘れられない」と。私は戦後、台湾から引き揚げてきたわけですが、満州や樺太や朝鮮といった外地から来た人たちが、体調不良で休学していた人、いろいろな経歴をもつ人たちが一緒に中学生になったことで、同じ学年でも年上の人も結構いました。そういう意味でも特殊な学年だったと言えるでしょう。一回も休まずに今年も6月に63回目の総会を開くことができるのも結束力の賜だと思っています。

**太田** 仙台を離れた同期生たちが集まって、昭和50年頃に発足した東京二七会とも交流していましたね。いまは残念ながら人数が減ったことで活動はしていませんが。

**関** そうそう。高橋亮一君を中心に伊澤勤君、渡邊秀樹君たちがお互いに連絡をとり合い毎年4月の第一土曜日、場所は伊東温泉と決まっています、私たちも参加させてもらったり、東京と仙台の中間地点ということで、白河でゴルフをしたり。先生方も出席されて、互いの近況報告をして、励まし合ったものです。中にはハワイに別荘をもっている同期生がいて、遠征したこともありました。

母校を応援しようという熱意を空回りさせないよう、母校も門戸を広く開放していただきたい。

なお、同期会運営のノウハウなど、年の功で少々の蓄積があります。お気軽にお声かけください。

□東北学院高校二七会 代表 関俊一郎

〒98210823 仙台市太白区恵和町7-13

TEL 0221-22910942

## 座談会「ぼれ話

三人のお話は、戦後の東北学院の様子がかかる貴重な財産。ここに本文に盛り込むことができなかつたお話の一端をご紹介します。

● 赤煉瓦校舎は3階が音楽室、別棟として3階建てのサイエンスビルがあった。

● 階段教室から見える宮城学院の方が気にかかり、先生から注意された生徒数知れず。

● 月浦校長先生の英語の授業は印象深い。自分の信念を貫き通し、熱心に教育に取り組まれた。足早に歩くことから、あだ名は「ジープ」。

● いまは高層ビルが建つ敷地の片隅にある学院跡地の記念碑の前に立つと、優しかった恩師や仲間の面影が浮かび、応援歌が聞こえてくる。



二七会発足60周年を迎えた平成24年に発行された記念文集『3Lは輝きて、いま』

## 【東北学院高校「二七会」概要】

会員数 / 発足当初: 218名 現在: 110名(宮城県内85名、関東地区18名、岩手2名・山形・青森・香川・大阪・愛知各1名)

|            |                                       |
|------------|---------------------------------------|
| 昭和28年4月20日 | 二七会発足                                 |
|            | 第1回総会開催(出席者20名)                       |
| 昭和32年5月    | 事務局を現サンモール一番町にあった竹内源二郎会員の店舗「竹内金物店」に設置 |
| 昭和49年      | 月浦育英奨学基金(3万円)を開始                      |
| 平成元年       | 月浦育英奨学基金を5万円に増額                       |
| 平成24年      | 60周年記念文集『3Lは輝きて、いま』(B5版80頁)発行         |



東京二七会とのゴルフコンペでの記念写真(平成6年4月)



音楽コーディネーター

フルート奏者・吹奏楽指導者

関井 うらら

(せきい・うらら)

平成17年東北学院榴ヶ岡高等学校卒

平成21年教養学部人間科学科卒

音楽で  
人と人を  
つなぎたい



世代を超えたTGの輪

## 躍動する同窓生

PROGRESS

各界で活躍する東北学院の卒業生を紹介する「躍動する同窓生」。今回は印刷や出版を通してコミュニケーション支援を図る企業から音楽、演劇、ダンスの各方面で活躍する卒業生をご紹介します。

きました。いまでも私の演奏会にもよく来てくれる、かけがえない存在です」。そうこやかに話す表情からは想像できないほど、いまの関井さんは多忙を極める。演奏会や吹奏楽の指

## 吹奏楽と出会い、 将来を決めた中学時代

現在、関井さんはプロのフルート奏者として演奏するだけでなく、フルート指導、吹奏楽指導、司会、プロデュース活動など多岐にわたって活躍している。その肩書きは「音楽コーディネーター」。これは関井さん自身が創り出したものであり、「音楽で人と人をつなぎたい」という思いが凝縮された言葉でもある。

「私は根っからの吹奏楽子で、いまでも何が一番好きかと聞かれたら『吹奏楽』と答えます。それもバンド全体を見て、指導しているときに一番好きなんです」と関井さん。吹奏楽指導者を志したのは、なんと中学2年生のとき。その夢はいま、現実になった。

「中学で吹奏楽部に入ってからずっと、『吹奏楽の甲子園』とも称される専門館に行きたいと思っていた。でも、その夢をかなえることはできず、それなら高校で…と進学したのが、東北学院榴ヶ岡高校でした。当時は特に吹奏楽が盛んだったわけではないのです。でも、だからこそバンドと一緒に成長できるのではないかと言ってくださった先生の勧めもあり、また父の自慢の出身校だったこともあって進学を決めました。実はそのときに私が考えていたのは、当時、全国大会の常連校だった東北学院大学に推薦で進学して全国大会への出場を果たし、さらに教員免許を取得して吹奏楽部の顧問になろうと思っていたのです。将来の自分の姿を、これほど鮮明に描くことができる中学生はそう多くはない。

現在、関井さんは神奈川県にある相模女子大学 中学部・高専部の吹奏楽部の指導にあたり、昨年、高等部が東関東吹奏楽コンクールで金賞を受賞した。

「学校での指導は、先生方をはじめとして保護者の方々の理解と協力が必要不可欠です。そのためにも『結果』を出せる指導をしていかなければならないと思っています。厳しいからこそ、やりがいもあります」と関井さん。吹奏楽をこよなく愛する気持ちが伝わってくる。

## 「ひとつひとつの活動を さらに充実させる年」

東北学院大学に進学したのは、もう一つ理由があった。同大学の吹奏楽部であるシンフォニックウィンドアンサンブルの音楽監督を務めていた、故 淀彰氏のあとで演奏すること。

「残念なことに、夢だった先生の指導で、吹奏楽コンクールに出ることはできませんでした。それでも4年間、いい意味で先輩・後輩のけじめがきちんとあるこのサークルで活動したことで、言葉づかひや礼儀作法を身につけることができたのは、とてもよかったと思います。また中学の友人と高校の友人が大学で同じサークルだったことで、二人との友情をさらに深めることがで



導のかたわら、月2回ほど仙台に戻り、母校の吹奏楽部や個人レッスンの生徒の指導にあたっている。「休むと気が抜けるのか、かえって体調を崩してしまうんです」と笑う関井さんに、今年の抱負を伺った。

「昨年は新しいことに挑戦できた年でした。今年はそれらも含めて、ひとつひとつを自分のものにしていきたくと思っています。関井うらがが音楽コーディネーターとして活動していることを、一人でも多くの方に認知していただけるような活動ができればと思っています」と関井さん。「音楽で人と人をつなぎたい」という思いの根底には、「一人では決して奏でることのできない、吹奏楽のハーモニーが響いているのだろう。人と人とのつながりも同じ。誰かと一緒になら、感動は何倍にも大きくなる。関井さんは、その感動を今日もたくさんの人に届けている。

# Social Dance Sport

自分が味わった  
幸福感を  
多くの人に  
味わってほしい

有限会社スズキ・エモーショナル・カンパニー  
代表取締役  
スズキダンススクール 講師  
**鈴木 政春**  
(すずき・まさはる)

昭和55年経済学部経済学科卒  
文部科学省所管 JBDF公益財団法人日本ボールルームダンス連盟  
アスリート協会副会長・I級インストラクター・I級試験委員・I級講師・A級審査員  
NDLS日本アマチュアダンス技術検定機構・技術検定委員

## 事業承継を経て 新たなステップへ

美しいドレス姿の女性と、それを華麗にエスコートする男性が音楽に合わせて踊る社交ダンスは、シニアを中心に多くの愛好家がいる。鈴木さんは、仙台と塩竈に開いた自身の教室で、趣味で楽しむ社交ダンス、そして優秀を競う競技ダンスの両方の指導にあたっているインストラクターである。それだけでなく、公民館や市民セン

ターにも出向き、社交ダンスのグループレッスンも実施。多忙な毎日を送っている。

「まとまった休みがとれるのは、正月とお盆くらいでしょうか。それでもこれまで私自身がダンスを通して楽しい人生を送らせてもらいましたので、その恩返しのため、いまはダンスを教える立場でがんばっています」。

鈴木さんは、アマチュアとしてプロの両部門で、競技ダンスの全宮城チャンピオン座を獲得した実力者も主。しかし、10年以上前に現役を引退し、自らが開いたスクールの生徒を教えるかたわら、JBDF公益財団法人日本ボールルームダンス連盟A級審査員としても同連盟の運営に関わっている。

そんな鈴木さんが社交ダンスと出会ったのは、大学1年生のとき。「当時はオーケストラに所属していたのですが、ある日、先輩から『ダンスパーティーがあるから、ちょっと行ってみないか』と誘われたんです。行ってはみたものの、にわか仕立てでは全然踊ることができなかったわけです。でも、社交ダンスは女の子を自分からエスコートできることを知って、『これはいいものだ』と思いました(笑)。ダンスが下手なだけでは誘うこともできませんので、教室に通い始めました。これが社交ダンスとの出会いです」。

大学卒業後は信用金庫に就職。その間もダンスを続け、競技ダンスのアマチュア部門で全宮城のチャンピオンになった。プロをめざすために12年間勤務した信用金庫を辞めるときも、円満退職だったという。安定した仕事を手放してまで、挑戦したくなるダンスの魅力とは、どのようなものだろうか。

「まず男女で踊りますので、ときめきがあります。いい音楽にのせて思い通りに動くと、とても幸せな気持ちになれるんですよ。また発表の場もありますから、華やかな場所ですポットライトを浴びて、大きな拍手をもらう。また、見てくださる方々に感動を与えることもできる。これがダンスの魅力ではないでしょうか」。



世代を超えたTGの輪

## 躍動する 同窓生

PROGRESS



## さまざまなダンスの指導に 「恩返し」の気持ちを入れて

「プロに転向後も全宮城のチャンピオンになり、5年連続でその座を守り抜いたことで、鈴木さんはA級審査員の称号を獲得した。

「もとをたどれば、女の子の手を握ることができるといので始めたわけですが、やっていくうちに競技会の方に興味が出てきました。特に指導者になりたいと思っていたわけではなく、競技ダンスに夢中になり、技術の向上を追求してきたその延長線上にいまがあると思います。ダンスのおかげで、いいパートナーにも巡り会えましたので、これからも家内と一人で生徒さんを指導し、スタッフの力も借りながら、みなさんがもっと楽しく踊れるようにサポートしていきたいと思っています。特にシニア層の

方々には、いままでがんばった自分へのご褒美として、わくわく感が味わえるシチュエーションが社交ダンスにはあるのだということを知っていただけでも私たちの仕事だと思っています」。それを実現するために、鈴木さんは音楽制作や音響サービス、ドレスなどのダンス用品の販売なども複合的に手がけ、自分も味わってきたダンスの魅力を一ひとりで多くの人に伝えようと意気込んでいる。



青葉区一番町にあるスズキダンススクール(右)とJR西塩釜駅前にあるスズキダンス&カルチャー(左)

# すべては

# お客さまのために

これからも地域に役立つ企業でありたい

## 事業承継を経て 新たなステップへ

昭和35年、印刷業からスタートし、いまやリサーチから企画立案、メディアプランニング、ウェブ制作、出版、イベント運営と事業の幅を広げる株式会社ユーメディア。地元仙台で根強いファンをもつタウン情報誌『S-styie』、『Kappo』などの雑誌を編集・発行している企業と言えば、ピンと来る人も多いだろう。

今野さんは、社長として27年にわたり、人と人、まちと人、企業と人をつなぐ事業を展開。昨年12月、そのバトンを新社長につなぎ、会長に就任した。

「持論ではありますが、後継者問題は我々中小企業にとって最大の経営課題であると考えています。次の経営者をごつするのか。それを決められるのは社長だけだ

です。事業承継に関しては、震災の影響などもあり、考えていた時期よりも少し遅くなりましたが、それも含めてタイミングとしてはよかったのではないかと思います。でも『肩の荷を下ろした』という感覚はないんですよ」と話す今野さん。2年半前、公職とも言いつべき宮城県中小企業団体中央会の会長に就任したことで、関係する複数の職務も同時に担うことになった。

「東北学院同窓会長である後藤久幸さんから引き継いだ役割でもありますので、しっかりと務めます」と笑顔を見せる。

## 経営者で構成される

## 「TG地塩会」を発足

東北学院同窓会には、「地塩(ちのしお)会」という経営者がメンバーのTG会がある。今野さんは、それを



ユーメディアが編集・発行している出版物。最近では、500円でランチが楽しめる「ランチパスポート仙台」が特に人気



世代を超えたTGの輪

## 躍動する同窓生

PROGRESS

株式会社ユーメディア 代表取締役会長  
宮城県中小企業団体中央会 会長

## 今野 敦之

(こんの・あつし)

昭和41年文経学部経済学科卒



つかった初期のメンバーであり、3人の代表世話人の一人でもある。

「母校の先生をお招きして専門分野のお話を聞き、その後、立食の簡単な親睦会を開いて情報交換をしています。2カ月に1回のペースで行っているのですが、常時30人から50人は集まります。みなさん、なかなか勉強熱心なんです。毎回は出席できないという人も少なくありませんので、1、2回欠席しても、また新たな気持ちで参加できるよう、講演者もそのテーマも毎回変えています。しかし、これからはワンテーマを深く学ぶことができるように、シリーズ化するのもおもしろいかもしれませんね。」

「地塩会」は、会員には年齢制限はないものの、発足当初から代表世話人に限り、「65歳定年制」を導入している。それによって組織の活性化が図られていると言っ。

いつも先見性のある発想で、組織に新しい風を送り込んできた今野さんに、今後の抱負を伺った。

「私たちは、『お客さまのことを最優先に考える』を行動指針として、お客さまがどんなことを望んでいるのかを的確に把握し、また、どんな仕掛けを構築すればお客さまが喜んでくださるのかを常に考えています。そして、『S-styie』のように、自分たちで取材・編集し、その本に値段をつけて販売するといった独自性が発揮できる事業にも力を入れていきます。それを価格競争に打ち勝つための弊社の強みとして育て、製造業としての印刷業からの脱却を図っていきたくですね。また、震災復興への取り組みを継続し、『ユーメディア』という社名の通りに、メディア産業として地域に役に立つ企業になること、そして社員が幸せを感じられる会社になることをめざしていきます。」

お客さまに喜んでいただくことで地域経済の発展に貢献し、一人ひとりの社員がやりがいをもって仕事にあたることができる。今野さんの地域愛、社員愛がこの好循環を生み出す原動力になっているのかもしれない。



## 仙台の経済界、全国の印刷業界に果たした 今野さんの功績

平成十八年、藍綬褒章を受章し、昨年、仙台市における産業経済の発展に寄与した功績が認められ、市政功労者章を受章した今野さん。その2年前には、全日本印刷工業組合連合会より、永年にわたって中小印刷業界の指導と印刷産業の振興発展に貢献した功労者として、顕彰状が贈られています。



「よかつた」のひと言が、何よりうれしいです



# 時来組 後者

有限会社神田時来組  
イナゲマンこと  
稲毛 健一郎

(いなげ・けんいちろう)  
昭和63年東北学院榴ヶ岡高等学校卒  
平成4年経済学部経済学科卒



世を超えたT.Gの輪  
躍動する  
同窓生  
PROGRESS

2月上演の「大新撰組〜不器用に  
しか生きられなかった自分(おとこ)  
たち〜」は時来組の企画・制作作品。  
稲毛さんは芹沢鴨役を演じる。

## 人との出会いがあつて いまの自分がある

「日本のカルチュエ・ラタン」としても知られる東京神田神保町。脇道に入ると、古き良き時代の文学青年たちが往来する姿を彷彿とさせるような喫茶店や古書店が軒を連ねている。文化の香り漂うその一画に、稲毛さんが所属する劇団時来組はある。2月に公演を控えた『大新撰組』の稽古中にお話を伺った。

「漠然と映画監督になりたい...と思っていたのですが、大学時代は自分は何になりたいのか、何がしたいのかを模索していました。そんなとき、ふとしたきっかけで仙台市が主催する市制100周年記念ミュージカル

『OH-NIE』に出演することになったんです。そこで何かが目覚めてしまいました」と笑う稲毛さん。

仙台には、いままで40を超える劇団が存在し、毎週のように演劇公演が行われているが、稲毛さんが演劇に目覚めた当時は、高校演劇のOB・OGが中心となつて活動する少数の劇団があるだけだったそう。そこで稲毛さんはミュージカルに出演した翌年に7、8人の仲間たちと『OH-夢来,S』(オムライス)という劇団を立ち上げた。「演じることはもちろん、仲間と何かをつくり出すことが楽しかったのだと思います」。

大学卒業後、1年間は自分たちの劇団で芝居づくりに明け暮れる日々を送り、翌年劇団スパー・エキセントリック・シアターの養成所に入った。ここから東京での暮らしが始まった。そして、その翌年に演劇集団円の養成所の試験を受けて合格。  
「円」には2年間に在籍し、その後3年くらいはどの劇団にも属さず、お芝居をやっていました。そこで時来組と出会ったわけです。ですから20代後半からずっとここにいることになりました」。

稲毛さんは役者として主演もするが、舞台装置も

つくってしまふ。時来組ではそれぞれが演じることで外に得意分野をもっており、殺陣(たて)の立ち回りを演出したり、音響や照明といった裏方の仕事も担っている。

「上演する作品も9割がオリジナルなんです。先輩・後輩の間に礼節は保つていても、垣根はない。みんなそれぞれの世界観を共有し、カタチにすることに夢中になれるのが芝居の魅力でしょうか。そして観に来てくれたお客さんたちに『観に来てよかつた』と言っていただけなのが、何より一番うれしいです」と、稲毛さんは入団からの16年を振り返る。

## いつか宮城・仙台で 時来組の凱旋公演を

「いま思うと、榴ヶ岡高校はすごかつたなと思います。当時から私服でしたし、バイク通学も許されていましたからね。入学した年、文化祭の1カ月くらい前から、実行委員の人たちが背中に大きく『榴』と書かれたハッピを着て通学しているのを見て、その自由さ、大らかさに衝撃を受けました」。



## 【インタビューこぼれ話】

時来組の事務所がある神保町には、いくつもの脇道が通っており、人の行き来も活発。昭和の風情を残す古書店をはじめ、喫茶店、果物屋、日用品店といった商店の佇まいが、かえって新鮮な印象を与えています。



# 懐かしい風 新しい出会い

同窓生のお店を訪ねて 18

塩竈のまちを彷彿とさせるような  
印象に残る味をめざしています

亀喜寿司  
有限会社亀喜  
**保志 昌宏** (ほし・まひろ)  
昭和57年法学部法律学科卒



すべてのお客さまが  
楽しめる店づくり

港町・塩竈には寿司店が数多く存在するが、その中でも亀喜寿司の堂々とした店構えには心惹かれるものがある。そのルーツは、大正時代に亀山喜代さんという人が営んでいた食堂まで遡るといえる。

「3代目の父が、お客さまに提供するものを寿司に絞って、有限会社化して現在のような寿司店になりました」と話す保志さんは、亀喜寿司の5代目。ネタは地元でとれた近海物、彩りや器選び、盛りつけにまで気を配り、お客さまを飽きさせないサービスを提供している。

人気を集めるメニューは、旬のネタによって内容が変わる季節の盛り合わせ。そして保志さん自ら考案した塩竈の藻塩を使ったマグロの握りも評判が高い。藻塩によってマグロが本来もっている味が引き出され、シャリのおいしさも一段と際立つ一品となっている。また、地元の素材を使ったオリジナルデザートも好評。『浦霞』の大吟醸の酒粕を使ったアイスとムースはお子さんからご年配の方まで、幅広い年代の方に楽しんでいただけるよう、酒粕のアルコール分を抜いてあるんです」。

くのか、お客さまの立場で考えることを信条とする保志さんらしい発想が、亀喜寿司のメニューを彩っている。

大学時代の出会いで  
将来の方向性を決意

東北学院大学に入ってからよかったことを尋ねると、「友人たちがバラバラにならずに、いまでも気心の知れた友人との関係が続いていること」と話してくれた保志さん。大学4年の夏休みに、札幌にある父親の知り合いの店でアルバイトをする機会を得た。その店の親方とのふれあいの中で、保志さんは地域に根ざした「番店」になること、そして小さいけれど、ピカッと光るお店になろうと決意したと言う。

「よく『伝統の味』と言いますが、時代のニーズに合っていないければいけないのではないかと思います。私自身はシャリ、酢、塩など、試行錯誤しながら少しずつ『革新』しています。ただ単に伝統を守るのではなく、自分がおいしいと感じ、納得し、自信をもってお客さまに提供する。それが私のめざすところです」と保志さん。お客さまの「おいしいね」、「塩竈に来てよかった」、「また来るよ」といった言葉をやりがいとして、塩竈のまちを彷彿とさせるような、印象に残る寿司をめざし、革新を続けている。



亀喜寿司  
〒985-0022  
宮城県塩竈市新富町6-12  
TEL.022(362)2055  
【営業時間】 平日/AM11:00~PM9:00  
土・日・祝日/AM11:00~PM3:00、PM5:00~PM9:00  
【定休日】火曜日



## TOPIC

### 希少価値の高い 「フラワーソルト」を使用

塩竈でつくられている藻塩は、塩竈沖の海水をホンダワラという海藻に通して煮詰めてつくられることから、この呼び名がつけました。亀喜寿司では、藻塩をつくる過程で、できるときとできないときがある貴重な「フラワーソルト」という塩の結晶を砕いて使っているそうです。素材の旨みを引き出してくれる藻塩を使ったお寿司は、亀喜寿司だけで味わえる一品です。

# 懐かしい風 新しい出会い

同窓生のお店を訪ねて 18

## 90年以上にわたって愛される 手づくりの優しい味わい



伊達瓦煎餅本舗  
有限会社一茶  
**佐藤 明** (さとう・あきら)  
昭和50年東北学院中学校卒  
昭和53年東北学院高等学校卒

### 厳選素材を使った 手づくり煎餅

大正12年の創業以来、素材にこだわった煎餅をつくり続け、仙台・宮城の人々に愛されてきた伊達瓦煎餅本舗一茶。その名の通り、瓦の形をした煎餅は、厳選した小麦粉と砂糖、卵をベースにつくられ、カステラの堅焼きのような歯応えと卵の豊かな風味が特徴だ。また添加物を一切使用していないこだわりの一品には、焼き印によつて伊達政宗公の騎馬像、「竹に雀」の家紋の絵柄が施され、伝統の仙台土産としても愛されてきた。

「この家業は家内のおじいさんが始めたもので、伊達家より家紋の使用許可をいただき、その焼き印を押しして仕上げたものを中心に、15種類ほど味のバリエーションがあります」と話す佐藤さん。ピーナッツやごま、みそといった定番に加え、佐藤さんが試作を重ねて完成させた新作を期間限定で発売。心待ちにしているファンも多い。

### 幅広い年齢層に 愛される味わいを

「中学、高校時代はやんちゃでしたが、礼拝は好きだったんです。毎日、心を落ち着かせる時間をもつことがいかに大切で贅沢なことであったのかは、大人になってよくわかるようになりました」。

「天文班の先輩、後輩とは、いまでも忘年会を開いています。同窓生とは菓子組合の会合などでお会いする機会もあるのですが、やはり格別の親しみを感じますね」。

佐藤さんは現在、宮城県菓子工業組合青年部の相談役として、同組合の全国組織と連携しながら、被災地の子どもたちにお菓子を贈る「愛の菓子運動」として震災復興活動にも積極的に参加する。幸町小学校の2年生を対象とした工場見学を受け入れている。

「子どもさんたちに喜んでもらえれば、それが私たちの喜びにもなります。幅広い年齢層のお客さまに愛されるお菓子をづくり続けることが私と家内の願いです。ですから、二人で管理できる範囲の中で販売するやり方を守り、これからも皆さんに愛されるお煎餅を心を込めてつくっていききたいと思っています」。

商品化したいアイデアが、まだまだたくさんあるという佐藤さん。今後の新作を楽しみに待ちたい。



### TOPIC 特注煎餅に欠かせない オリジナル焼き印

写真の焼き印は、東北学院大学体育会ゴルフ部が、昨年、創部50周年を迎え、それを記念して開催された祝賀会で、参加者に配られた特注煎餅に押されたもの。「東北学院大50th体育会ゴルフ部」の文字が浮き彫りになっています。



伊達瓦煎餅本舗 一茶  
〒983-0838  
宮城県仙台市宮城野区二の森3-62  
TEL.022(792)6778  
[営業時間] AM10:00~PM 6:00  
[定休日] 日曜、祝日  
<http://dategawara.com>

総会開催の情報に  
ふれる機会を増やし

# より参加 しやすい 同窓会に



## Faces

同窓会ネットワークを支える  
この人 この顔

vol.18

東北学院同窓会 青森県上十三支部 支部長

## 神 直子 (じん・なおこ)

十和田市役所 総務部総務課 行政改革推進係 係長  
平成3年法学部法律学科卒

### profile

昭和43年生まれ。青森県出身。平成3年東北学院大学を卒業後、十和田市役所に入庁。水道事業所に配属となり、財政課、国民健康保険課などを経て、現在に至る。「十和田市は、今年1月1日に市制施行10周年を迎えたことから、さまざまな事業が実施され、今年度は特別に忙しい年です。10年に1度の事業に係わることができたことを誇りに、今後の業務に活かしていきたい」と話す。



### 三沢市・十和田市・上北郡 3地域の同窓会支部

ー現在、上十三支部にはどれくらいのメンバーが登録しているのですか。

「上十三」は「かみとうさん」と読みます。青森県の上北郡と十和田市、三沢市の最初の文字を合わせた名称で、2010年10月現在、324名というデータがありますので、現在は350名を超えているのでしょうか。ただし、実際に総会に出席する人数は20人前後となっています。十和田支部は昭和38年から3回発足の歴史がありますが、平成17年に三沢・十和田支部として再々々出発をし、5年前に上十三支部として地域の拡大及び名称変更をいたしました。私はその後平成24年に支部長を仰せつかりました。青森県には他に青森支部、弘前支部と八戸支部がありますが、十和田市・三沢市に、上北郡を加えた3地域が一つになったことで、より同窓生が参加しやすくなったのではないかと思います。また、この地域の特長として中心市が一つではないので、どちらの住民も出席しやすいよう十和田市と三沢市交互に総会地を代えています。

ーどのような活動を行っているのですか。

1年に1回、11月くらいに総会を開いています。讚美歌と祈祷は欠かせません。ゆっくり近況報告して、親睦を深めています。できれば新しいメンバーが加わってくれるとうれしいのですが、一人で来るのが気恥ずかしいのでしょうか。なかなか参加者が増えないというのが現状です。

ー学生時代を振り返ってみて、どのようなことが印象に残っていますか。

大学では囲碁部でした。以前たまたま対局現場に遭遇し、つい立ち止まってしまったら女性ということもあつてか珍しがられ、初対面の人であっても言葉を交わすきっかけになるんです。そういったことから、囲碁はコミュニケーションを円滑にしてくれますし、出合いを豊かにしていると思います。いまはOB会総会で年一回、集まる機会が楽しみです。最近仕事で忙しくなり、なかなか参加できないのですが、たとえ数年ぶりの参加でも、みなさんが私のことを覚えてくださっていて、青森からわざわざ(笑)来たということから歓迎してくれるんです。卒業して20年以上も経っていますし、もう可愛がられる年齢でもないのですが、いつまでも私は後輩で、先輩は先輩のままなんです。講義で学んだ知識はもちろん、大切な財産ですが、サークル活動で得た全てのものも、私にとっての財産と言えるのではないかと思います。

もう一つ、印象に残っているのが朝の礼拝です。授業がない日でも礼拝に合わせて学校に行っていましたし、4年間ほぼ出席していました。先生方のお話を聞くのも好きでしたが、何と云ってもパイプオルガンの音は圧巻でした。土樋の古さも泉の新しいさもそれぞれの美しさに触られたこともかけがえない経験です。聖書を読み返すと癒やされることがあります。行き詰まった時に思い出す言葉

も聖書から引いた言葉であることもあります。

ー最後に今後の抱負をお聞かせください。

同窓生同士の助け合いや、地域に資するようになったらと思います。各支部の総会開催の案内を、実家と現住所の両方に送ることで、総会に出席する機会が増えると思います。例えば上十三支部の案内は実家が上十三地区でも、仕事で青森地区に住んでいる同窓生には届かないというのが現状です。

各支部総会開催日等を定期的にメールで知らせることで支部を越えた出席ができるようになると思います。私は支部長ということで他支部からの案内をいただきますが、自分の支部とは違う雰囲気があり楽しいものです。

先生方にもっと支部の総会に出席していただけたらうれしいですね。先生方のご都合もありますので、早めに総会開催日時を決定し、出席される先生方を開催案内時に掲載することができれば、特に若い同窓生が総会に出席する人が増えるかもしれません。懐かしい先生が来てくだされば、より盛り上がるのではないかと思います。





同窓会支部一覧 85支部

平成27年3月1日現在

| 宮城県   | 北海道     | 岩手県     | 山形県     | 関東     | 東海・近畿    |
|-------|---------|---------|---------|--------|----------|
| 仙台同窓会 | 札幌支部    | 盛岡支部    | 山形支部    | 東京支部   | 東海支部     |
| 青葉支部  | 旭川支部    | 一関支部    | 上山支部    | 神奈川支部  | 静岡支部     |
| 泉支部   | 岩見沢支部   | 奥州支部    | 寒河江支部   | 栃木県支部  | 近畿支部     |
| 太白支部  | 帯広・十勝支部 | 釜石支部    | 酒田支部    | 群馬支部   |          |
| 宮城野支部 | 釧路支部    | 北上・和賀支部 | 新庄支部    | 武蔵野支部  |          |
| 若林支部  | 函館支部    | 気仙支部    | 天童支部    | 水戸支部   |          |
| 秋保支部  | 室蘭支部    | 紫波支部    | 米沢支部    |        |          |
| 岩切支部  | 角田・丸森支部 | 宮古支部    |         |        |          |
| 利府支部  | 白石支部    |         |         |        |          |
| 塩釜支部  | 黒川支部    | 青森県     | 秋田県     | 福島県    | 信越・北陸    |
| 松島支部  | 大崎支部    | 青森支部    | 秋田県中央支部 | 福島県北支部 | 新潟支部     |
| 鳴瀬支部  | 登米支部    | 八戸支部    | 秋田県大館支部 | 会津支部   | 信州支部     |
| 石巻支部  | 美里支部    | 弘前支部    | 秋田県南支部  | いわき支部  | 北陸支部     |
| 女川支部  | 涌谷支部    | 上十三支部   |         | 郡山支部   |          |
| 志津川支部 | 栗原支部    |         |         | 相馬支部   |          |
| 気仙沼支部 | 鳴子支部    |         |         | 南相馬支部  |          |
| 名取支部  |         |         |         | 双葉支部   |          |
|       |         |         |         |        | 中国・四国・九州 |
|       |         |         |         |        | 広島支部     |
|       |         |         |         |        | 四国支部     |
|       |         |         |         |        | 九州支部     |
|       |         |         |         |        | 北米       |
|       |         |         |         |        | 北米支部     |

東北学院大学  
土樋キャンパス  
整備工事が  
いよいよ始まりました



東北学院大学土樋キャンパスの正門前北側隣接地における、新校舎建設工事(工事名:東北学院大学土樋キャンパス北地区新校舎(仮称)新築工事)がいよいよ始まりました。現在の工事の進捗状況は5%ほど(1月末現在)。新校舎には教室や研究室のほか、学生が主体的に学ぶことができる広い空間を確保します。安全で開放的な「TGUモール」(仮称)として、完成をめざす土樋キャンパスの整備計画。新しくなった母校を闊歩する日を、皆さん、楽しみにお待ちしております。

【情報をお寄せください】全国で幅広い活動を行う支部、TG会の活動報告の場です。皆様の情報をお待ちしております。(情報は校友課まで)



TG Gallery  
東北学院榴ヶ岡高等学校全景  
Taku Furuyama

古山 拓。昭和61年 文学部史学科卒。昭和37年岩手県に生まれる。アニメーター、印刷会社、デザインプロダクション勤務を経て、平成6年、フリーイラストレーターとして独立。東北、東京等各地で風景水彩画の個展を開催。個展発表と広告美術の二本の柱で活動中。日仏現代美術博「ARTEC 造形美術賞」受賞。パリで開催された国交省イベント「ようこそ東北へ」では、東北風景紹介作家としてメイン展示。アトリエ名/ランズエンド。洋画家 故・杉浦朝雄氏に師事。●東北イラストレーターズクラブ会員 ●(社)宮城県芸術協会会員

東北学院大学

土樋キャンパス

大学院: 文学研究科・経済学研究科・経営学研究科  
法学研究科・法務研究科

学 部: 文学部・経済学部・経営学部  
法学部(各3・4年)

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

多賀城キャンパス

大学院: 工学研究科

学 部: 工学部

〒985-8537 多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

泉キャンパス

大学院: 人間情報学研究科

学 部: 文学部・経済学部・経営学部  
法学部(各1・2年)・教養学部

〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学校・高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1  
TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655

3L通信編集委員会

|      |                   |       |
|------|-------------------|-------|
| 委員長  | 東北学院長・東北学院同窓会名誉会長 | 星宮 望  |
| 副委員長 | 東北学院庶務部長          | 八島 康治 |
| 委 員  | 東北学院大学学長室長・経済学部教授 | 阿部 重樹 |
|      | 同窓会若林支部幹事長(代議員)   | 亀岡 幸康 |
|      | 仙台同窓会事務局長(代議員)    | 館崎 智信 |
|      | 同窓会宮城野支部幹事長(代議員)  | 菊地 茂  |
|      | 法学部同窓会副会長         |       |
|      | 同窓会太白支部(代議員)      | 高橋 公晴 |
|      | TGスポーツOB連合会副会長    |       |
|      | ユアテックTG会事務局長(代議員) | 馬場 弘幸 |
|      | 東北学院広報部広報課長       | 折原 清  |
|      | 東北学院庶務部校友課長       | 菅井 研  |
|      | 東北学院庶務部校友課長補佐     | 増田 敏  |
|      | 東北学院庶務部校友課        | 菱河 亮平 |

発行日/2015(平成27)年3月1日

発行所/東北学院同窓会(事務局:庶務部校友課)

発行人/後藤 久幸

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

TEL.022-264-6468 FAX.022-214-0404

URL: http://www.tg-alumni.jp

E-mail: dousou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

印 刷/株式会社ユーメディア

校友課より

「個人情報保護法」への取り組みについて

平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたのに伴い、東北学院では園児・生徒・学生をはじめ卒業生等の個人情報の取り扱いについて「学校法人東北学院個人情報保護規程」を定め、個人情報の適正な管理と保護に努めています。

校友課では、東北学院同窓会の運営に必要な皆様の個人情報をお預かりしていますが、今後も個人情報保護法に基づき慎重に取り扱って参りますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。詳細については、東北学院ホームページに掲載していますのでご覧下さい。

なお、東北学院同窓会で使用する個人情報の利用目的は、次の通りです。

- ◇「東北学院時報」並びに「3L通信—Lux Mundi」の送付
- ◇「東北学院時報」購読料徴収に関わる事務
- ◇ホームカミングデー「懐かしい出会いの夕べ」の案内及び参加費徴収に関わる事務
- ◇各支部・TG会などが主催する総会及び行事の案内
- ◇その他、上記に関連する業務

住所等変更届のお願い

同窓生の皆様には、お名前・ご住所・電話番号に変更が生じましたら、お手数でも校友課までご連絡下さいませようお願いいたします。お預かりする皆様方の個人情報は慎重に取り扱い、同窓会に関する利用目的以外には使用いたしません。特に「東北学院時報」と「3L通信—Lux Mundi」は、皆様と母校を結ぶ通信手段として欠かせないものですので、ぜひご協力をお願いいたします。なお、住所変更届は東北学院同窓会公式ホームページからも行うことができます。

お名前の「旧字体」や「特殊文字」の扱いについて

東北学院では、今年中に、同窓生情報のシステムの変更を予定しております。

システムの変更に伴い、お名前に旧字体や特殊文字をお使いの方は、会報の送付の際などに、常用の字体(JIS第二水準)に置き換えて表記させていただくこととなります。皆様方には、予めご了承いただきたく、ご理解とご協力をお願い申し上げます。